

令和 8年 9月 1日 (火)

日 本 緑 化 工 学 会

令和 8 年度 通常総会

於：帯広畜産大学

帯広市稲田町西2線11番地

－ 次 第 －

議 案

- (1) 第一号議案 令和 7 年度事業報告
- (2) 第二号議案 令和 7 年度決算報告
- (3) 第三号議案 会則の一部改訂
- (4) 第四号議案 令和 8 年度事業計画
- (5) 第五号議案 令和 8 年度収支予算
- (6) その他

日 本 緑 化 工 学 会

<http://www.jsrt.jp/>

(大会会期中・会議関係日程) 2026年 於：帯広畜産大学
9月1日 (火) 12 : 00～13 : 30 学会賞表彰式 及び 定時総会
9月2日 (水) 12 : 05～13 : 20 評議員会

第一号議案

日本緑化工学会 令和7年度事業報告

(令和7年／2025年8月1日～令和8年／2026年7月31日)

1. 第56回日本緑化工学会大会の開催

開催日時：2025年9月8日（月）～10日（水）

開催地：京都大学 芝蘭会館（京都市）および、大阪・関西万博会場（大阪市）

発表題数：79題（口頭発表 17件、ポスター発表 62件）

発表件数のうち、論文 20件、技術報告 21件、研究交流発表 38件

参加者：247名（会員 143名、学生会員 27名、非会員 43名、非会員（学生）9名、スタッフ 25名）

- ・ 公開シンポジウム「緑化の未来を拓く！森林・草地生態系における植物群集形成の科学」（9月8日）を実施。
- ・ 現地見学会「大阪・関西万博における未来の緑の活用と管理」（9月10日）を開催。
- ・ 研究集会 5件を会期中に開催。

2. シンポジウム

第56回日本緑化工学会大会にて、公開シンポジウムを開催。

開催日時：2025年9月8日（月） 15:30～17:30

会場：京都大学芝蘭会館 稲盛ホール

テーマ：「緑化の未来を拓く！森林・草地生態系における植物群集形成の科学」

参加者：約200名

3. 技術交流会

技術交流会を開催。

開催日時：2026年5月22日（金） 18:30～20:30

会場：九州産業大学 8号館 2階 8205教室

テーマ：「道路法面管理の現況から逆説的に見えること」

参加者：約30名

4. 現地見学会

第56回日本緑化工学会大会にて、現地見学会を開催。

開催日時：2025年9月10日（水） 9:30～12:00

見学場所：大阪・関西万博会場 大屋根リング、静けさの森、森になる建築

テーマ：「大阪・関西万博における未来の緑の活用と管理」

参加者：43名

5. 研究部会等

(1) 斜面緑化研究部会

①勉強会「～最近の樹木根系の防災効果に関する研究事例から～」の開催

開催日時：2026年3月23日（月） 15:00～17:00

会場：東京農業大学 世田谷キャンパス 1号館 2階 231教室

主催：日本緑化工学会 斜面緑化研究部会

開催方法：対面および Web 併用

プログラム：

- ・ 話題提供 1 大野千星織（東京農業大学大学院 地域環境科学研究科 林学専攻 M2）
「間伐による立木密度の違いがヒノキの根系生長に及ぼす影響」
- ・ 話題提供 2 佐久間楽奈（東京農業大学大学院 地域環境科学研究科 林学専攻 M2）
「斜面におけるオオバアサガラとケヤマハンノキの根系による土壌補強強度の比較
—森林植生に対するシカ食害の深刻化を背景として—」
- ・ 話題提供 3 佐々木綾香（東京農業大学大学院 地域環境科学研究科 林学専攻 D1）
「石礫層の厚い生育基盤がクロマツとタブノキの引き倒し抵抗性に与える影響」

参加者：約 80 名

②公開講演会『森も暮らしも支える木の根っこ』 開催への協力

開催日時：2026年6月21日（日） 14:00～16:30

会場：福知山公立大学 3号館 2階 講義室 3206

主催：『森も暮らしも支える木の根っこ』 公開講演会実行委員会

協力：根研究学会、日本緑化工学会、福知山公立大学

開催方法：対面

プログラム：

- ・ 趣旨説明 平野恭弘（名古屋大学）
- ・ 特別講演 1 池野英利（福知山公立大学）
「森の根っこをモデル化してそのはたらきを診る」
- ・ 特別講演 2 橘 隆一（東京農業大学）
「緑化工における樹木根研究の歴史と現状の課題」
- ・ パネルディスカッション モデレータ 山瀬敬太郎（兵庫県立大学）

参加者：約 50 名

(2) 生態・環境緑化研究部会

第 56 回大会において研究集会を開催。

開催日時：2025年9月9日（火） 12:00～13:30

会場：京都大学 芝蘭会館（稲盛ホール）

テーマ：「緑化植物・地域性種苗のよりよい使用に向けて」（研究集会（3））

参加者：約 80 名

(3) 乾燥地緑化研究部会

学会誌 51 巻 4 号 (2026 年、pp. 341-361) への特集記事掲載。

特集「東アフリカ・ジブチ共和国における東京農業大学の乾燥地研究の 30 年」

- ・ 橘 隆一 特集にあたって
- ・ 渡邊文雄 ジブチ国における東京農大の砂漠緑化研究プロジェクトの歩みと成果
- ・ 島田沢彦, Hassan Ali Barkad, Tabareck Mohamed Ismael
ジブチにおける水資源・農地化ポテンシャル評価と SATREPS 研究の成果
- ・ 浅倉康裕 ジブチにおける環境資源の現状と未来に向けた持続的利用について
- ・ 渡辺 智 乾燥地ジブチにおける微細藻類資源の探索とスピルリナの発見
- ・ 篠原 卓 ジブチにおけるアグロパストラル・システム型作物生産の現状と課題

(4) 緑・健康研究部会

緑・健康研究部会主催見学会「品川セントラルガーデンでオフィス街緑化の新たな可能性を探る」を開催。

開催日時：2026 年 6 月 20 日 (土) 13:30~16:00

開催地：品川インターシティホール&会議室 第 4 会議室 および、品川セントラルガーデン
内 容：

- ・ 解説「品川セントラルガーデンでの取り組み①」
講師：高森万貴氏 (株式会社大林組 技術本部技術研究所)
- ・ 解説「品川セントラルガーデンでの取り組み②」
講師：南 太輝氏 (日鉄興和不動産株式会社)
- ・ 品川セントラルガーデンの見学
- ・ 意見交換会

参加者：15 名

(5) 生物多様性緑化研究部会

部会目標「産官学がともに議論し Nature Positive を加速化する」に対する具体的取り組みとして、令和 10 (2028) 年 9 月末をめどに「生態系機能評価ガイドライン」を策定することを目指している。令和 7 年度は、以下の活動を実施した。

①部会横断型の勉強会

- ・ 第一回勉強会：2025 年 12 月 5 日 (金)
生態系 (サイト) × 機能で、指標－計測手法－文献を整理した結果を共有。
- ・ 第二回勉強会：2026 年 2 月 27 日 (金)
学会の強み (特徴) の整理、市民・行政・企業の ニーズを棚卸し。
- ・ 第三回勉強会：2026 年 8 月 17 日 (月)
ガイドラインの社会実装方法を議論。

②幹事による行政ヒアリング

- ・ 環境省 ネイチャーポジティブ推進室 (2026 年 1 月 9 日)
- ・ 国土交通省 河川環境課 (2026 年 2 月 9 日)

(6) 海岸林・沿岸域緑化研究部会

砂浜から海岸林にかけた最新の話、公開勉強会のテーマ案を部会内で共有。

(7) 第 56 回大会 企画研究集会

①企画担当：木村圭一（国立環境研究所）ほか（研究集会（2））

開催日時：2025 年 9 月 8 日（月） 11:15～12:45 会場：山内ホール

テ ー マ：「生態系創出資材としてのバイオクラストの可能性を考える」

②企画担当：今西亜友美（近畿大学）ほか（研究集会（4））

開催日時：2025 年 9 月 9 日（火） 12:00～13:30 会場：山内ホール

テ ー マ：「OECM で生きる！都市・農村地域における生物多様性の保全と再生」

③企画担当：築瀬知史（東日本高速道路）ほか（研究集会（5））

開催日時：2025 年 9 月 9 日（火） 13:45～15:15 会場：山内ホール

テ ー マ：「技術交流会 自生種苗（地域性種苗）の功罪について」

6. 学会誌の発行

(1) 第 51 巻 1 号：令和 7 年 8 月 31 日発行 201 ページ（第 56 回大会特集号）

(2) 第 51 巻 2 号：令和 7 年 11 月 30 日発行 62 ページ

(3) 第 51 巻 3 号：令和 8 年 2 月 28 日発行 77 ページ

(4) 第 51 巻 4 号：令和 8 年 5 月 31 日発行 99 ページ

7. 英文誌 Landscape and Ecological Engineering (LEE) の発行

(1) Vol. 21 No. 4：2025 年 10 月発行（23 編）

(2) Vol. 22 No. 1：2026 年 1 月発行（10 編）

(3) Vol. 22 No. 2：2026 年 4 月発行（10 編）

(4) Vol. 22 No. 3：2026 年 7 月発行（27 編）

: Special Feature: “Dam reservoirs as freshwater ecosystem —assessment and management —”（淡水生態系としてのダム貯水池—評価と管理—）を含む

・ Journal Impact Factor 2.1 (2025) ←1.9 (2024)

・ 5-year Journal Impact Factor 2.2 (2025) ←2.2 (2024)

8. 令和 7 年度日本緑化工学会賞の授与

研究奨励賞：矢尾板 晃弘（やおいた あきひろ）氏

「凍結融解環境下における植生工の地盤補強効果と斜面安定性に関する研究」

功 績 賞：吉崎 真司（よしざき しんじ）氏

「乾燥地や海岸における防風・防砂と緑化技術に関する功績」

9. CPD

(1) 第 56 回日本緑化工学会大会

森林分野 CPD を、1 名に延べ 7 ポイントを付与した。また、建設分野 CPD として合計 120 ポイントを付与した。

(2) 土木学会認定 CPD プログラムへの申請検討

(3) 技術交流会（於 九州産業大学）

土木学会 CPD を 4 名に、建設分野 CPD を 4 名にポイントを付与した。

10. 学会誌の電子化に伴う学会活動・運営

(1) コミュニティレターの発行

①第 3 号：令和 7 年 8 月 31 日発行 52 ページ

②第 4 号：令和 7 年 12 月 17 日発行 62 ページ

③第 5 号：令和 8 年 3 月 31 日発行 35 ページ

- ・ 学会情報の発信、会員同士の交流を目的として発刊。
- ・ 賛助会員には冊子の送付を行った。

(2) ホームページ整備

- ・ 会員管理システムの導入にあたり、ホームページの機能も標準（追加料金なし）で活用出来るため、このシステムを活用する方向で準備を進めてきた。
- ・ 大会に関わる案内を、新ホームページにて情報公開をした。
- ・ 現在、新旧ホームページの併用中である。併用でわかりにくいため、新ホームページをトップとし、旧ホームページにはデータが大きいものを中心として閲覧する形への変更を予定している。

(3) 広報・活動支援

- ・ 学会誌の電子化に伴い、学会ホームページへのバナー、コミュニティレターおよび、研究交流集会要旨集へ協力いただいている賛助会員の情報を掲載した。
- ・ 賛助会員による活動支援は、7 団体より支援を得た。

11. 研究部門におけるその他活動

(1) 防災学術連携体における活動

①防災学術連携体 2026 年度総会に出席（開催日：2026 年 7 月 29 日（水））

②各種集会等の告知と参加

- ・ 随時開催される WEB 研究会のオンライン配信の告知
- ・ 防災推進国民大会 2025 シンポジウム参加の告知
- ・ 防災学術連携体 10 周年記念シンポジウム「63 学協会連携の軌跡と防災研究のあり方」の参加、オンライン配信の告知（開催日：2026 年 1 月 29 日（木））
- ・ 第 8 回防災に関する日本学術会議・学協会・府省庁の連絡会「防災庁の設立と事前防災の推進」の参加（開催日：2026 年 7 月 22 日（水））

(2) 災害復興支援・災害対応指針検討委員会

①委員会の設立準備

当学会の災害対応への行動指針となる「災害復興支援・災害対応指針（案）」の策定に向け、委員会の設立準備を開始した。期限は2年間で予定している。

②第56回大会において研究集会を開催した。（研究集会（1））

開催日時：2025年9月8日（月） 11：15～12：45

テーマ：「緑化工学を活かした災害復興支援を考える」（研究集会(1)）会場：稲盛ホール

12. 会員および会費

理事会において、以下の4点が承認された。

- ・ 学生会員：学生会員の会員資格を1ヶ年度とし、継続する場合は毎年度更新することとした。
- ・ 請求書郵送の事務手数料請求：案内等のメール化により、会費請求書の郵送を希望する場合、年会費に加え事務手数料1,000円を請求することとした。
- ・ 会費のオンライン決済化：会員管理サービス「SMOOSY」の導入（以下、15. に詳細）により、会費支払いを原則としてオンライン決済とした。郵便振込を選択する場合には、2027年度から年会費に加え事務手数料500円を請求することとした。^{※1}
- ・ 上記と同様、学会誌掲載費支払いについても、事務手数料^{※2}を2026年8月から請求することとした。

※1 会費支払いを口座引落にしている場合は、手数料はかからない。

※2 学会誌掲載費の支払いで、口座引落設定者は一時的にオンライン決済か振込決済かの選択となり振込決済を選択する場合、事務手数料が発生する。

13. その他

(1) 会員管理サービス「SMOOSY」((株)アトラス)の導入

- ・ 新サービス導入により、会員情報と年会費請求・入金状況、イベント参加登録等を一元管理。
- ・ 会員向けお知らせ「ニュースメール」を一括メール配信。
- ・ 年会費や大会・イベント参加費等の支払いについて、オンライン決済を標準とした。請求書・領収書もオンラインにて発行。

(2) 日本学術会議に関する協力団体としての対応 資料提供、情報交換等

(3) 日本農学会に関する所属団体としての対応 情報提供等

(4) 総会資料のペーパーレス化

14. 会員数

（令和8年7月末現在。括弧内は、←前年度末、←前々年度末、←前々々年度末 の数を表す。）

(1) 名誉会員： 8 名 （←7名 ←7名 ←8名）

(2) 正 会 員：502 名 （←495名 ←583名 ←582名）

(3) 学生会員： 90 名 （←99名 ←84名 ←79名）

- ・ 大会発表のために入会する学生会員に対する会費優遇措置を2015年度より実施、継続。

(4) 賛助会員： 52 団体（←54団体 ←53団体 ←53団体）

2025年度 収支報告書
(2025年 8月 1日 ～ 2026年 7月31日)

日本緑化工学会

単位：円

費 目		予算額 (A)	執行額 (B)	差額 (B-A)	対予算割合 (B÷A×100)	摘 要
収入の部	正会員費	4,000,000	5,163,400	1,163,400	129.09	会員数 480名 (@8000)、2026年前受分304含む
	賛助会員費	1,925,000	2,170,000	245,000	112.73	会員数 52団体 (@35000)、2026年前受分179含む
	学生会員費	200,000	260,000	60,000	130.00	会員数 63名 (@4000)、2026年前受分11含む
	入会登録料	32,900	50,300	17,400	152.89	56件 (@700*19+@1,000*37)
	英文誌購読料	17,600	30,800	13,200	175.00	7件、前受17.6含む
	投稿料	600,000	880,000	280,000	146.67	59編 (51巻1号*41編、2号8編、3号4編、4号6編)
	賛助金収入	800,000	1,035,000	235,000	129.38	7団体分
	雑収入	600,000	848,727	248,727	141.45	著作権使用料56千、過年度会費等275千、受取寄付金30千、受取利息9千、大会参加費返受金462千、旅費返金6千
	小 計	8,175,500	10,438,227	2,262,727	127.68	
	繰越金	14,257,739	14,257,739			2024年度繰越金を現金預金残高に修正
合 計		22,433,239	24,695,966	2,262,727	110.09	
支出の部	会議費	300,000	178,756	▲ 121,244	59.59	理事会懇親会補助
	旅費交通費	1,500,000	633,647	▲ 866,353	42.24	理事会交通費3回分
	事務委託費	3,700,000	2,380,511	▲ 1,319,489	64.34	学会事務運営1473千、会員管理システム550千(前払含む)、サーバー使用料135千、ロボットペイメント104千、学会WEBサイト編集87千、日本システム収納会費32千
	通信費	120,000	143,686	23,686	119.74	事務局電話代86千、コミュニティレター発送39千、送料17千、切手代1千
	事務用品費	100,000	67,628	▲ 32,372	67.63	学会賞用品
	学会誌刊行費	2,000,000	2,114,244	114,244	105.71	ジャーナルサポート編集745千、J-Stage公開579千、Editorial Manager利用544千(前払含む)、コミュニティレター245千
	英文誌出版分担金	167,600	172,000	4,400	102.63	5名分
	大会補助費	200,000	0	▲ 200,000	0.00	
	研究部会補助費	1,000,000	82,824	▲ 917,176	8.28	3部会分
	委員会等経費	400,000	0	▲ 400,000	0.00	
	諸会費	230,000	129,550	▲ 100,450	56.33	日本農学会64千、JAFPE40千、防災学術連携体20千、土木学会プログラム認定5.5千
	災害特別対策費	100,000	0	▲ 100,000	0.00	
	雑費	30,000	14,310	▲ 15,690	47.70	振込手数料9千、会費返金5千
	基金積み立て	0	0	0	0.00	
	小 計	9,847,600	5,917,156	▲ 3,930,444	60.09	
	予備費	12,585,639	18,778,810	6,193,171	149.21	現金預金期末残高
合 計		22,433,239	24,695,966	2,262,727	110.09	

次期繰越金		18,778,810
-------	--	------------

2025年度 日本緑化工学会の収支決算内容を上記の通りご報告いたします。
2026年8月20日

日本緑化工学会経理部会長 今井 祥 

2025年度 基金 収支報告書

(2025年 8月 1日 ~ 2026年 7月31日)

日本緑化工学会

単位：円

費 目		予算額 (A)	執行額 (B)	差額 (B-A)	対予算割合 (B÷A×100)	摘 要
収入の部	前期繰越	1,130,131	1,130,131	0	100.00	
	利子収入	102	2,816	2,714	2,760.78	
	一般会計より積み立て	0	70,000	70,000	-	賛助会員前受会費2件
	一般会計から回収	0	0	0	-	
	合 計	1,130,233	1,202,947	72,714	106.43	
支出の部	一般会計へ繰り入れ	0	0	0	-	
	一般会計へ貸し出し	0	0	0	-	
	合 計	0	0	0	-	

次期繰越金		1,202,947
-------	--	-----------

2025 年度 貸借対照表及び損益計算書

貸 借 対 照 表

(2026年7月31日現在)

単位：円

資産の部			負債の部		
区分	科目	金額	区分	科目	金額
流動資産		19,710,348	流動負債		6,291,702
	現金	26,125		前受会費	4,930,400
	普通預金・三井住友	6,815,928		前受金	25,600
	普通預金・ゆうちょ	10,733,810		未払費用	873,702
	普通預金・みずほ	1,202,947		仮受金	462,000
	未収入金	335,350	正味財産の部		
	前払費用	596,188	区分	科目	金額
			正味財産		13,418,646
				次期繰越正味財産	12,285,699
				基金繰越金	1,132,947
合計		19,710,348	合計		19,710,348

損益計算書

自) 2025年8月1日 至) 2026年7月31日

単位：円

項 目			金 額
経常 収 益 の 部	事業 収 益	受取会費（正会員）	3,598,000
		受取会費（学生会員）	262,300
		受取会費（賛助会員）	1,820,000
		受取入会金	50,300
		論文掲載料	825,000
		学会誌頒布収入（LEE購読料）	17,600
			6,573,200
	事業 外 収 益	賛助金収入	1,110,000
		受取利息	8,984
		受取手数料	1,000
		償却債権取立益	275,400
		雑収入	56,843
		受取寄付金	30,000
		1,482,227	
経常収益合計		8,055,427	
経常 費 用 の 部	事業 費	学会誌刊行費（LEE分担金）	109,500
		学会誌刊行費（学会誌発行）	1,519,254
		学会誌刊行費（Editorial manager）	433,840
		会議費	178,756
		研究部会補助費	80,124
		業務委託費	2,785,662
		消耗品費	67,628
		諸会費	57,862
		通信費	104,716
		旅費交通費	627,647
		租税公課	400
		支払手数料	125,461
			6,090,850
	管 理 費	交際費	2,700
		発送費	38,970
			41,670
	経常費用合計		6,132,520
当期正味財産増減額（当期余剰金）			1,922,907

監 査 報 告 書

日本緑化工学会

会長 築瀬 知史 殿

私たち監事は、令和7年度（2025年8月1日～2026年7月31日）における本学会の業務および会計の監査を行いました。その結果について、以下のとおり報告いたします。

1. 監査の方法

会計帳簿、領収書等の関係書類を閲覧・照合し、収支報告書、貸借対照表および損益計算書の内容について精査・確認を行いました。

2. 監査の結果

会計処理および決算書類は、法令および会則に従い、学会の財産および収支の状況を適正に表示しているものと認めます。また、事業執行においても不正や、不適切な行為は認められませんでした。

令和8年8月21日

監 事 入山 義久



監 事 高橋 輝昌



第三号議案

会則の一部改定（案）

会則の一部改定新旧対照表（下線は変更部分を示す。）

現 行	改 正	摘 要
(名称) 第1条 本学会は日本緑化工学会と称し、以下、本会則では本会と称する。英文名称は The Japanese Society of Revegetation Technology (略称は JSRT) とする。	(名称) 第1条 本学会は日本緑化工学会(<u>にほんりよつかこうがつかい</u>)と称し、以下、本会則では本会と称する。英文名称は The Japanese Society of Revegetation Technology (略称は JSRT) とする。	名 称 の 読 み を 定義するため
(会費) 第7条 本会の会費は次のとおりとする。 (1) 正会員 年額 8,000 円 (2) 賛助会員 年額 35,000 円以上 (3) 学生会員 年額 4,000 円 (4) 名誉会員 会費を納めることを要しない 2. 英文誌を冊子で購読する場合は以下の金額を追加する。 (1) 英文誌冊子購読費 年額 4,000 円＋消費税	(会費) 第7条 本会の会費は次のとおりとする。 (1) 正会員 年額 8,000 円 (2) 賛助会員 年額 35,000 円以上 (3) 学生会員 年額 4,000 円 (4) 名誉会員 会費を納めることを要しない <u>2. 会費は学会の目的達成のために運営費用に充てるものであり、特定の対価を得るものではない。</u> <u>3. 英文誌を冊子で購読する場合は以下の金額を追加する。</u> (1) 英文誌冊子購読費 年額 4,000 円＋消費税	会 費 の 非 対 価 性を明記するため
(会議の議事録) 第33条 会議における議事の経過及びその結果は議事録に記載し、議長及び出席者の代表2名以上が署名押印の上これを保有する。	(会議の議事録) 第33条 会議における議事の経過及びその結果は議事録に<u>記載し、公開する。</u>	実態に即するため
(理事担当) 第 34 条 (略) 2. 事業部門には総務、経理、企画・事業、編集、学術国際交流の各部会を置き、理事の中から担当理事を定め、うち1名を部会長とする。	(理事担当) 第 34 条 (略) 2. 事業部門には総務、経理、<u>広報</u>、企画・事業、編集、学術国際交流の各部会を置き、理事の中から担当理事を定め、うち1名を部会長とする。	部会の創設のため

- (なし)	<u>(事業部門:広報部会)</u> <u>第 37 条 広報部会の担当事項は次のとおりとする。</u> <u>(1) 広報・ホームページに関すること</u> <u>(2) 協賛に関すること</u> <u>(3) その他必要な事項</u>	部会の担当事項を定めるため 第 37 条の追加に伴い、以下の条番号を繰り下げる
---------------	--	---

第四号議案

日本緑化工学会 令和8年度事業計画（案）

（令和8年／2026年8月1日～令和9年／2027年7月31日）

1. 第57回日本緑化工学会大会の開催

開催年月日：2026年9月1日（火）～3日（木）

開催地：帯広畜産大学（帯広市）

発表題数：99題（口頭発表 10件、ポスター発表 89件）

発表件数のうち、論文 11件、技術報告 31件、交流部門 57件

公開シンポジウム「積雪寒冷地の法面・崩壊斜面と緑化保全の最前線」（9月1日）

現地見学会「帯広畜産大学内の施設見学」（9月3日）

研究集会 6件（9月2日） 企業展示 5件（9月1、2日）

業界研究会 10件（9月2日） 情報交換会（9月1日）

※第58回大会は、「ELR2027」として、2027年9月に金沢市で開催予定。

第59回大会は、2028年9月に開催予定。開催地未定。

2. 研究会等

(1) 斜面緑化研究部会

①通常号への特集原稿「外来草本ヨシススキの分布域拡大状況の確認と課題」（第55回大会 研究集会（4）のテーマ）を投稿中

②第57回大会において公開シンポジウムを企画（積雪寒冷地緑化研究部会との共催）

開催年月日：2026年9月1日（火） 13:45～15:55

会場：帯広畜産大学 大講義室

テーマ：「積雪寒冷地の法面・崩壊斜面と緑化保全の最前線」

③その他、研究集会、勉強会、現地見学会を企画予定

(2) 都市緑化研究部会

グリーンインフラ、ネイチャーポジティブ等に関わる勉強会等を検討中。

(3) 生態・環境緑化研究部会

第57回大会において研究集会を企画

開催日時：2026年9月2日（水） 13:30～14:45

テーマ：「現場のことは現場に聞け 『わちけん』の成功と失敗から次の一手を考える」

会場：帯広畜産大学 25 番講義室 （研究集会（2））

(4) 乾燥地緑化研究部会

公開シンポジウム 2026 (案)

「モンゴルの森林ステップと気候変動ー植生変化と再生への取り組みー」

日 時：2026 年 12 月～2027 年 2 月末頃の土曜日 13:00～16:30 (予定)

場 所：東京農業大学世田谷キャンパス (予定)

方 法：ハイブリッド (対面および zoom ミーティング併用)

参加申込：要 参 加 費：無料

主 催：日本緑化工学会乾燥地緑化研究部会

C P D：森林・自然環境技術者教育会 (JAFEE) の CPD 認定プログラム (予定)
(森林分野・建設分野・土木分野 CPD)

プログラム (案)

・開会あいさつ：三木直子 (乾燥地緑化研究部会 岡山大学)

・趣旨説明：小田あゆみ (乾燥地緑化研究部会 信州大学)

<基調講演> 吉川 賢 (岡山大学名誉教授)

<講 演> 講演 1 安江 恒 (信州大学)

講演 2 小谷亜由美 (名古屋大学)

講演 3 講演候補者調整中

質疑応答・まとめ 山中典和 (乾燥地緑化研究部会 鳥取大学名誉教授)、小田あゆみ

(5) 積雪寒冷地緑化研究部会

第 57 回大会公開シンポジウムを開催予定 (斜面緑化研究部会と共催、2 (1) に詳細)

(6) 緑・健康研究部会

①緑・健康研究部会主催 見学会を開催予定 (開催時期、テーマは未定)

②「緑と人の健康」に関するオンラインセミナーを企画予定

(7) 生物多様性研究部会

①「生態系機能評価ガイドライン」の策定に関する行動

部会目標「産官学がともに議論し Nature Positive を加速化する」に対する具体的取り組みとして、令和 10 (2028) 年 9 月末をめどに「生態系機能評価ガイドライン」を策定することを目指している。令和 8 年度は「生態系機能評価ガイドライン」素案の作成に取り組む。勉強会 3 回、研究集会 1 回の開催を予定。また、グリーンインフラ官民連携プラットフォーム「グリーンインフラ技術集」2027 年度発刊分に、当該プロジェクトの一部を掲載する方針で調整を進める。

②第 57 回大会における研究集会開催

研究集会「学会発、生態系機能評価ガイドラインーNature Positive を推進するために」を開催。基調講演に中村圭吾氏 (土木研究所) を招待。

開催日時：2026 年 9 月 2 日 (水) 14:55～16:10

会 場：帯広畜産大学 5 番講義室 (研究集会 (4))

(8) 海岸林・沿岸域緑化研究部会

年2回の公開勉強会を継続予定。(開催時期、テーマは未定)

(現在活動中の研究部会)

斜面緑化研究部会 / 都市緑化技術研究部会 / 生態・環境緑化研究部会

乾燥地緑化研究部会 / 積雪寒冷地緑化研究部会 / 緑・健康研究部会

生物多様性緑化研究部会 / 海岸林・沿岸域緑化研究部会

3. シンポジウム

(1) 第57回大会公開シンポジウム

開催年月日：2026年9月1日(火) 13:45～15:55

会 場：帯広畜産大学 大講義室

テ ー マ：「積雪寒冷地の法面・崩壊斜面と緑化保全の最前線」

(2) その他、企画シンポジウムの開催を予定。

4. 現地見学会

(1) 第57回大会現地見学会 「帯広畜産大学内の施設見学」

開催年月日：2026年9月3日(木)

見学場所：帯広畜産大学

(2) その他、現地見学会、検討会を開催予定

開催日時、テーマ：調整中

5. 学会誌の発行：2回発行予定

(1) 第52巻1号：令和8年8月31日発行(第57回大会特集号)

(2) 第52巻2号：令和8年8月1日～令和9年7月31日(通常号)

・第52巻(2026年度)より「大会特集号」と「通常号」の2号編成とする。「通常号」は、採択が決定した原稿からJ-Stageに即時公開する。

6. 学会誌の電子化に伴う学会活動・運営

(1) 学会事務運営業務および、学会ホームページサイト更新管理の業務委託

学会事務運営業務(入退会受付、会計、会誌保管業務等)および、随時の情報更新が必要なホームページのサイト更新管理作業を外部へ業務委託する。

(2) コミュニティレターの発行：年3回発行予定

①第6号：令和8年8月 発行予定

②第7号：令和8年12月 発行予定

③第8号：令和9年4月 発行予定

7. 英文誌 Landscape and Ecological Engineering (LEE) の発行

4 回発行予定 : Vol. 22 (4), Vol. 23 (1)~(3)

8. ICLEEE2026 大会

開催年月日 : 2026 年 10 月 30 日 (金) ~11 月 1 日 (日)

会 場 : 台北 (台湾)、National Taiwan University (NTU)

9. 学会賞の授与

令和 8 年度日本緑化工学会賞の授与 (令和 9 年度総会にて授与予定)

10. CPD

第 57 回大会の公開シンポジウム、研究集会、および現地見学会等を、森林・自然環境技術教育センター (JAFEE) ならびに土木学会 CPD の CPD プログラムとして登録し、CPD ポイントを付与する。

また、各種イベントについても、必要に応じて各 CPD プログラムへ登録し、CPD ポイントを付与する。

11. 情報公開・広報・交流事業

- (1) ホームページ及び会員ブログの運営
- (2) 会員向け連絡「ニュースメール」の配信、情報管理と公開
- (3) メーリングリスト green-if の運営

12. その他

- (1) 日本学術会議に関する協力団体としての対応
- (2) 防災学術連携体における活動
 - ①総会、WEB 研究会及び連絡会に参加予定。
 - ②防災学術連携体の中で日本緑化工学会が参加できる内容を告知、随時対応。
- (3) 日本農学会における活動
- (4) 災害復興支援・災害対応指針検討委員会における活動

令和8(2026)年度 予算案

(2026年8月1日～2027年7月31日)

日本緑化工学会

単位：円

費 目		予算額 (A)	前年度 決算額 (B)	差額 (A-B)	対予算割合 (B÷A×100)	摘 要
収入の部	正会員費	4,000,000	5,163,400	▲ 1,163,400	129.09	正会員数500名 (@8,000)
	賛助会員費	1,925,000	2,170,000	▲ 245,000	112.73	賛助会員数55団体 (@35,000)
	学生会員費	280,000	260,000	20,000	92.86	学生会員数70名 (@4,000)
	入会登録料	30,000	50,300	▲ 20,300	167.67	30名(団体)分 (@1,000)
	英文誌購読料	17,600	30,800	▲ 13,200	175.00	4件分 (@4,400)
	投稿料	672,000	880,000	▲ 208,000	130.95	45件分
	賛助金収入	900,000	1,035,000	▲ 135,000	115.00	7団体分
	雑収入	70,000	848,727	▲ 778,727	1,212.47	著作権使用料、受取利息等
	小 計	7,894,600	10,438,227	▲ 2,543,627	132.22	
	前期繰越金	18,778,810	18,778,810			
合 計		26,673,410	29,217,037	▲ 2,543,627	109.54	
支出の部	会議費	300,000	178,756	121,244	59.59	理事会・評議会会議室借り上げ代、茶菓代等
	旅費交通費	1,000,000	633,647	366,353	63.36	理事会交通費、対面(Web併用)開催3回
	事務費	100,000	67,628	32,372	67.63	学会賞賞状・副賞、総務部会事務用品等
	通信費	150,000	143,686	6,314	95.79	事務局電話代、郵送料等
	学会誌刊行費	2,200,000	2,114,244	85,756	96.10	ジャーナルサポート編集760千、J-Stage公開600千、Editorial Manager利用560千、コミュニティレター250千
	学会誌刊行費(英文)	172,000	172,000	0	100.00	ICLEE負担金、LEE購読料
	大会補助費	462,000	0	462,000	0.00	大会収入仮受金を本部から払い出し
	シンポジウム・見学会補助費	100,000	0	100,000	0.00	開催運営の赤字補填、他学会共催シンポジウム補助費
	研究部会補助費	1,040,000	82,824	957,176	7.96	研究部門100千円/部会×8部会、事業部門40千円/部会×6部会(新設部会含む)
	委員会等経費	200,000	0	200,000	0.00	会議室使用料・旅費・編集委員会(通常号・大会号論文)
	事務委託費	3,500,000	2,380,511	1,119,489	68.01	学会事務運営1800千、会員管理システム660千、サーバー使用料160千、ロボットペイメント130千、クラウドデータ保管100千、学会WEBサイト編集110千、日本システム収納会費40千
	CPD等経費	44,000	5,500	38,500	12.50	土木学会CPDプログラム認定等
	諸会費	130,000	124,050	5,950	95.42	JAFEE、防災学術連携体、日本農学会
	災害対策費	100,000	0	100,000	0.00	災害調査費用 他
	雑費	25,000	14,310	10,690	57.24	振込手数料、租税公課、交際費他
	予備費	30,000	0	30,000	0.00	慶弔費等
	小 計	9,553,000	5,917,156	3,635,844	61.94	
	次期繰越金	17,120,410	23,299,881	▲ 6,179,471	136.09	
合 計		26,673,410	29,217,037	1,092,217	109.54	

※前期繰越金は前年度末の現金預金残高を記載

※予算科目は経理事務要領(2026.6制定)に基づき再構成

2026年9月1日

日本緑化工学会経理部会長 今井 祥



令和8(2026)年度 基金予算案

(2026年 8月 1日 ~ 2027年 7月31日)

日本緑化工学会

単位：円

費 目		予算額 (A)	前年度 決算額 (B)	差額 (A-B)	対予算割合 (B÷A×100)	摘 要
収入の部	前期より繰り越し	1,202,947	1,130,131	72,816	93.95	
	利子収入	4,810	2,816	1,994	58.54	みずほ銀行普通預金金利(0.4%/年)
	一般会計より積み立て	0	70,000	▲ 70,000	-	賛助会員費のスポット入金を見込まないことによる減
	一般会計から回収	0	0	0	-	
	合 計	1,207,757	1,202,947	4,810	99.60	
支出の部	一般会計へ繰り入れ	70,000	0	70,000	0.00	賛助会員費のスポット入金を一般会計に移行
	一般会計へ貸し出し	0	0	0	-	
	合 計	70,000	0	70,000	0.00	

次期繰越金	1,137,757	1,202,947
-------	-----------	-----------